

学校法人大乘淑徳学園  
淑徳短期大学  
機関別評価結果

平成 26 年 3 月 13 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 淑徳短期大学の概要

設置者 学校法人 大乘淑徳学園  
理事長 長谷川 匡俊  
学 長 石上 善應  
A L O 小杉 誠司  
開設年月日 昭和 25 年 4 月 1 日  
所在地 東京都板橋区前野町 6-36-4

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
社会福祉学科	社会福祉専攻	50
社会福祉学科	介護福祉専攻	40
こども学科		250
	合計	340

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

淑徳短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成26年3月13日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成24年7月24日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、一言で表すと「共生（ともいき）」という大乘仏教を基軸とした、自利利他の理念・精神を建学の精神として、各学科・専攻課程の教育目標を明確に確立した教育・研究活動を展開している。全学生が必修で学修する各種ボランティアは、建学の精神を実践知とする取り組みである。

学習成果については、教科科目の成績評価を基に、GPAを用いて定量的にとらえるのみならず、到達目標の項目ごとに科目を分類し、それぞれの平均値としても算出して、その結果をアセスメントして授業改善に結び付ける工夫をしている。

自己点検・評価の取り組みについては、自己点検評価委員会を設置し、適切に学生アンケートの結果を取り入れるなど、組織的に自己点検・評価を実施している。

学生支援については、代表的な演習科目を少人数のゼミ形式で行い、入学から卒業まで多岐にわたり学生をサポートし、効果もあげている。

教育課程については、学生が目指す資格に対応した、充実した科目編成になっている。また、卒業進路（就職先）に対するアンケートや卒業生に対するアンケートを実施し、教育課程の見直しを行うとともに、より良い学生支援に向けて検討をしている。

専任教員数は、短期大学設置基準を充足しており、その他非常勤教員、助手等との編成により、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づく教員組織は整備されている。

物的資源についても、校地・校舎・施設設備等は短期大学設置基準を満たして十分に整備されている。各建物が離れており学生移動等に課題があるが、この課題についても、時間割編成等の工夫で極力解消に努めている。各建物は大変良い環境下に置かれ、教育・研究活動が展開されている。実験室・実習室等を整備し機器備品を揃え、学科・専攻課程の学習成果を獲得するための整備がなされている。

「中期経営計画」（4か年）を毎年見直し、財務基盤の確立、人事計画、問題解決に向けての方策等が明確にされ、法人全体及び短期大学の将来像について、学園全体の方針が部門、部署、個人まで浸透するように設計されており、日常の管理についても

適切に行われている。

理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理し、建学の精神の継承と「福祉の淑徳」を標榜する教育の拠点として、「淑徳アーカイブズ」を開設するとともに、短期大学教育の一層の充実を図るために、現状に甘んじることなく淑徳大学短期大学部への発展改組等の改革に率先して取り組んでいる。また、学長は、自らが授業科目を担当し、直接学生の教育に関わることを通して、建学の精神に基づく、教育課程、学生支援、教育目的の設定等について、その方向を的確に示している。これらのことは、理事長、学長のリーダーシップの在り方として模範となるものである。

監事は寄附行為の規定に基づいて監査報告書を毎年度作成し、理事会及び評議員会に提出している。また、評議員会も適切に運営されている。日常的な事務執行についても、各規程により適正に処理されていることから、短期大学のガバナンスについては、適切に機能していると判断できる。

当該短期大学は、2年間の教育を通して、社会に通用する優秀な学生を養成するという強い信念を持って教育が実践されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

#### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神を学習する正規科目として「共生論」、「宗教」を必修科目とし、全ての学生が履修するようにしている。特に、「共生論」では単なる理論を学ぶだけでなく、全学生が地域ボランティアを行っている。学生が地域ボランティアを円滑に行うために、ボランティアセンターを設置し専任の職員を配置している。

[テーマ B 教育の効果]

- 学習成果・評価科目は総平均の GPA を算出するだけでなく、到達目標につながる科目群ごとに平均値を算出している。その結果をアセスメントし授業改善に結び付けている。学習成果の数値結果を検討し改善策を考える際に、全教員会に兼任講師も交えて意見交換を行っている。

#### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ B 学生支援]

- 代表的な演習科目を少人数のゼミ形式で行い、入学から卒業まで学生支援の効果をあげている。

#### **基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス**

[テーマ A 理事長のリーダーシップ]

- 理事長は、建学の精神の継承と「福祉の淑徳」を標榜する教育の拠点として「淑徳アーカイブズ」を開設するとともに、短期大学の発展等の改革にリーダーシップを発揮している。

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は学内運営と法人との交渉においてリーダーシップを発揮するとともに、自ら授業科目を担当することを通し、教育課程の編成、学生支援、教育目的の設定においてその方向付けを行っている。

### **(2) 向上・充実のための課題**

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

#### **基準Ⅱ 教育課程と学生支援**

[テーマ A 教育課程]

- シラバスに、15 週目や 30 週目に定期試験に当たる「考査」という文言が記載されている科目がみられる。既に、教員への連絡はなされているが、再度周知することが望まれる。

[テーマ B 学生支援]

- 授業評価結果を授業改善につなげる取り組みについて、具体的なシステム（行動計画）の構築が求められる。

### **(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	基準	評価結果
基準Ⅰ	建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ	教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ	教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ	リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神とそれに基づく教育の目的を具体的に示し、内外に公表している。建学の精神が書かれた「大乘淑徳教本」をはじめとして、授業で学びボランティアとして実践するというサイクルができています。さらに入学直後にあるフレッシュマンキャンプをはじめとする年間の行事も、建学の精神を学ぶ機会としています。

学科・専攻課程の教育目的・目標は建学の精神に基づき設定されており、その共通の教育的価値を「共生の精神」と位置付け、その教育的価値と社会との関連を示しながら、学科・専攻課程の教育の目的を明確にしている。それらは、学生には演習授業や学生便覧等を通じて直接的・日常的に伝えられている。また、社会及び受験生に対しては、分かりやすい表現でウェブサイトや入学案内に示している。

学習成果は教科目の成績評価を基に、GPAを用いた数値的な成果として表している。GPAは科目群ごとにアセスメントを行い、FDや学科・コースの会議等で教育方法、学習方法の改善に生かしている。

自己点検・評価に関しては、自己点検評価委員会を設置し、組織的に自己点検・評価を実施している。具体的には年に2回の授業評価をはじめとして、学生生活アンケート等を通し、教育環境や内容に関する検証、評価を行っている。

学科・コースにおいて検討して決定した学習成果については、FDにおいて発表し、全学的な議論を行っている。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

各学科・専攻課程での学位授与の方針は、ウェブサイトで学内外に発信されており、学則にも規定されている。建学の精神を学ぶ科目では、学長自らが教壇に立ち教授している。学長の説く建学の精神は、多くの学生にとってインパクトのある学びとなっている。また、学生が目指す資格に対応した、充実した科目編成になっており、入学から卒業まで、ゼミ形式で一貫して学生支援を行っている。2年間という短い期間ではあるが、充実した学生生活に連動しており、卒業進路（就職先）に対するアンケートや卒業生に対するアンケートを実施し、教育課程の見直しを行うとともに、より良い学生支援に向けて検討している。学習成果として、到達目標（質的な査定方法）とGPA

(量的な査定方法)を定めているが、学生にも周知し、学生自身が学習成果の目標値を理解して学習に臨めるような工夫が求められる。

一方、各種専門資格の取得を目指す学科・専攻課程ゆえに、資格取得に伴い、卒業時に求められる単位数が多い傾向がある。このような特徴は、資格に係る厚生労働省等の基準の順守、専門資格を目指す幅広い科目編成といえるのであるが、資格取得に伴う必須単位数と学生生活の充実といった側面とのバランスについても、継続的な取り組みが望まれる。

シラバスに、15週目及び30週目に定期試験に当たる「考査」という文言が記載されている科目がみられる。既に、教員への連絡はなされているが、再度周知されることが望まれる。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、教員組織及び事務組織を適切に整備している。教員からは2年間で学生をきちんと教育し、優秀な学生を養成し社会に輩出するという強い熱意が感じられる。校地・校舎・施設設備等十分に整備されている。各建物が離れており学生移動等の課題があるが、時間割編成等の工夫で極力課題解消に努めている。各建物は大変よい環境下に置かれ、教育・研究活動が展開されている。実験室・実習室等を整備し機器備品を揃え、学科・専攻課程の学習成果を獲得するための整備がなされている。財的資源は、適切に管理されており、財務体質も現在は短期大学の帰属収支の悪化があるが、将来構想が計画されており健全な経営が期待できる。ただし、社会はまだ少子化傾向が続く環境にあり、今後も入学定員確保に向けて努力する必要がある。

短期大学は、平成21年度から平成22年度にわたり社会福祉学科介護福祉専攻の定員減、食物栄養学科の募集停止等により規模が縮小され財務環境が若干悪くなっているが、法人全体は健全に運営されている。今後に向けては、校名を淑徳短期大学から淑徳大学短期大学部に変更し、併設大学に平成26年度開設予定の人文学部との相乗効果を期待し、東京キャンパスとして効率的な運営を行うことを考えている。また、「中期経営計画」により財務基盤の確立、人事計画、問題解決に向けての方策等を明確にし、将来像を現実にすべく、(1)入学定員の充足、(2)入学定員(収容定員)に対する安定的な経営、(3)人材の有効活用及び変化に耐えうる人材育成の3点の目標を立てている。

短期大学で収容定員の未充足がみられる社会福祉学科介護福祉専攻について、「中期経営計画」では改善策として学科名称変更を含み教育課程の改革を行い、社会福祉分野のテコ入れを行うという計画がある。

### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、平成14年の就任以来、学校法人を代表し、その業務を総理し、短期大学の使命を果たすために適切にリーダーシップを発揮している。特に、建学の精神の継

承と「福祉の淑徳」を標榜する教育の拠点として、「淑徳アーカイブズ」を開設するとともに、短期大学教育の一層の充実を図るために、現状に甘んじることなく淑徳大学短期大学部への発展改組等の改革に率先して取り組んでいる。

学長は、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。とりわけ、学長自らが授業科目を担当し、直接学生の教育に関わることを通して、建学の精神に基づく、教育課程の編成、学生支援、教育目的の設定等について、その方向を的確に示している。

教授会は、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営されており、学習成果及び学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針について、共通認識を持ち、学内外へ公表している。

理事長、学長の意思決定やリーダーシップに関するガバナンスについては適切である。監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っており、毎年度監査報告書を理事会及び評議員会に提出している。評議員会についても、寄附行為の規定に基づき開催され、理事長の諮問機関として適切に運営されている。また、毎年度の事業計画、予算の決定、予算の執行、日常的な出納業務についても各規定により適正に処理されている。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 教養教育の取り組みについて

### 総評

教養教育は建学の精神と深く結び付いている。特に建学の精神を学ぶ科目である「宗教」、「共生論」は、教養科目として重要なだけでなく、建学の精神を学習する科目としても位置付いている。また、社会人として必要な基礎力についても、教養教育の中に配置し職業教育の一端としても大切な科目であることを位置付けており、教養教育の目的・目標が明確である。

教養教育の内容と実施体制は、その目的・目標の達成のため、教養科目を主として専門教育につながる基本としての学問的な知識・技術、思考方法を学ぶことを中心にしている。さらに社会人に必要な基本的な教養・マナー等の到達目標を定めたうえで学修できるようにしている。また、社会人として必要とされることの内容については、どのような人材が社会的に望まれているかをリサーチし、それを基に、教務委員会を中心としながら全学的に周知し、教養教育を考え実施しており、教養教育の効果を測定・評価し改善に取り組んでいる。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 教養教育の中に建学の精神を学ぶ科目を位置付けている。それらは、教養科目を主として専門教育を学び、他方では社会人として必要な教養やマナーを身に付けることを目的としている。特に建学の精神を学ぶ目的で配置された「共生論」では、全学生にボランティアを課し、教養でありながら理論だけでなく実践的に学びを深められる。

## 職業教育の取り組みについて

### 総評

当該短期大学は「社会福祉学科」と「こども学科」という福祉職・教育職に就くための専門職養成であるため、カリキュラムの編成が職業教育を意識したものとなって

おり、社会における即戦力としての人材養成を行っていることが分かる。職業教育の内容としても、就職後に必要な専門的な科目及び社会人としての基礎力を学ぶための科目が段階的に配置されている。

それら職業教育については、教員と職員が連携を取りながら進めている。特に担当ゼミ教員は学生一人ひとりの動向について、就職担当と情報を共有しながらきめ細かな支援をしている。

また、ゼミ単位での就職対策ガイダンスを実施し、個別的な指導を重視している。

職業教育の効果については、卒業生及び卒業生の進路先に対するアンケートを実施し、就職先で求められるスキルや卒業生の評価を聴取し改善に取り組んでいる。

職業教育を支える環境として、キャリアセンター・進路就職相談室がある。相談室には就職情報である求人ファイルを収め、専任職員が常駐し相談に応じている。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- ゼミ単位で行う就職対策ガイダンスがある。学生にとってゼミ単位のガイダンスは、全体での就職指導と個別での指導の中間的な指導であり、教員のこれまでの就職指導を通じて得た経験を直に伝えることや実際に卒業生の話を聞く機会等、具体的に理解しやすいものとなっている。

### 地域貢献の取り組みについて

#### 総評

地域貢献として「子育て応援隊 ふち・ぴち」で行なっている「ベビーマッサージ教室」、「パネルシアターで楽しもう」、「親子で遊ぼう」、「造形関連教室（お絵かき等）」など、平成24年度においては28回開催されており、参加者数も延べ700名を超える。また、夏季休暇を利用し東日本大震災の被災地へのボランティア活動も毎年継続して行われている。

これらの活動を支えるものとして「ボランティアセンター」を設置している。ボランティアセンターは、「子育て応援隊 ふち・ぴち」の活動や被災地へのボランティア、さらには当該短期大学へ依頼のあるボランティアを統括し調整している。

またボランティアセンターは、事務的な場所であるだけでなく、地域の親子が集えるようなスペースも設け、必要な備品も用意してある。板橋区で行っている在宅子育て支援策の「赤ちゃんの駅」として認定されており、地域における子育て支援の拠点的な機能を果たしている。

地域との交流活動は区以外にも、社会福祉協議会が主催する行事への参加や各種団体への施設開放等も行われている。

各種ボランティアは、建学の精神を学修する「共生論」における実践の一つとして、全ての学生が参加する機会を設けており、そことの連携がボランティア活動を支え、活性化させている。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ 継続的に開催されている「子育て応援隊 ふち・ぴち」の講座では、当該短期大学の専任教員が指導者となり、学生がそれを補佐する形で行われ、参加回数、参加者も多い。また、それを支える部署としてボランティアセンターがあり、地域と大学のつなぎ役として上手く機能している。

また、ボランティアセンター職員には卒業生を配置しており、単に事務处理的な役割のみではなく、学生へのアドバイスや、日常的には訪れた親子への対応等も行い、活動を支えている。